

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 3 月 8 日作成)

小委員会名	バリアフリーデザイン小委員会	主 査 名：岩田三千子 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：飯野 秋成
設 置 期 間	2007 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・2007 年度；4 回の委員会を開催して委員の研究内容についての情報交換を行うほか、公開研究会 1 回、見学会 1 回を企画運営する。</p> <p>・2008 年度；次期活動を視野に入れ、4 回の委員会を開催して委員の研究内容についての情報交換を行うほか、公開研究会 1 回、見学会 1 回を企画運営する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： なし	
	主査 岩田三千子 (摂南大学) 幹事 延原理恵 (京都教育大学) 委員 土川忠浩 (兵庫県立大学) 委員 堀越哲美 (名古屋工業大学) 委員 土田義郎 (金沢工業大学) 委員 安部信行 (八戸工業大学) 委員 村上泰浩 (崇城大学) 委員 二井るり子 (奈良女子大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2008 年度予算	195,000 円	ホームページ公開の有無： あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 見学会「里の風 (身体・知的障害者施設) 見学会」 参加者数 8 名 資料；「里の風の概要、設計主旨および図面」
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 計画通り 4 回の委員会を開催し、委員の研究内容についての情報交換を行うとともに、見学会の企画運営を行った。 2. 身体・知的障害者授産施設「里の風」の見学会を開催し、建築計画上の福祉的配慮や環境工学的なバリアフリーデザインについて、視察を行った。 3. 公開研究会は実施しなかったが、次期小委員会活動を視野に入れて、環境工学分野のバリアフリー環境設計用評価指標の作成に向けて、建築環境設計につながる高齢者や障害者の指標を収集、整理し、課題の抽出を行った。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会の目標のひとつとして、委員が共同で取り組める研究テーマを検討し、環境工学分野のバリアフリー環境設計用指標の作成を掲げ、それに向けた活動を開始したため、公開研究会を開催する時間がなくなった。 2. 昨今は本務先業務の多忙な委員が多く、ネットワーク拡大をねらって見学会等の企画実施することが難しく、日常的な意見交換も不十分になりがちである。 3. 次年度に向けて、わかりやすい環境工学分野のバリアフリー環境設計用指標を作成するため、さらに意義ある委員会活動を企画する必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>設置期間（2007～2008年度）には計8回の委員会を開催して委員の研究内容についての情報交換を行うほか、公開研究会、見学会を開催するとともに、HPを開設して活発に活動を行った。また、環境工学分野で今後取り組むべき課題と研究活動について検討を重ね、「環境工学分野のバリアフリー環境設計用指標の作成」についての目標を設定した。</p> <p>次期の活動計画についても、バリアフリー空間における建築環境工学的役割について更なる知見を広め活発な委員会活動へと導くため、2009年度建築学会大会に主題解説、コーディネーター、パネリスト、コメンテーターとして積極的に参加することを決め、さらに委員会独自の公開研究会や見学会等を企画して活発に研究活動を継続し、障害者を対象としたバリアフリーデザインに関する環境工学の観点から広く委員会活動を行う予定である。</p> <p>【公開研究会・見学会などの活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007年7月20日、建築会館会議室において「次世代の環境バリアフリー」と題する公開研究会を開催した。計画、環境工学の枠を超えた参加者とともにバリアフリー環境の実現に向けた活発な意見交換を行った。 また、会場ではスノーブレン機器の展示も同時に行い、建築環境工学の基礎的分野の研究者が学際的な立場でバリアフリーデザイン研究について理解を深め、ネットワーク拡大を図った。 ・2007年12月8日、サインデザイン協会北陸支部との合同により、富山ライトレールのバリアフリーデザイン見学会および公開研究会を開催した。また翌日には、富山市八尾町のまちづくりを見学して、まちづくりに関連する建築環境工学の役割について見聞を広めた。 ・2008年11月8日、身体・知的障害者授産施設「里の風」見学会を開催し、建築環境工学的なデザイン上の配慮について視察した。 ・バリアフリーデザイン小委員会 HP を立ち上げて活動内容を積極的に公表し、外部からの意見を聞く機会を設定した。 ・計画系の研究者との懇談を行う機会を得て、「人間工学分野におけるバリアフリーデザイン」の内容で講演を受けた。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。